スイートピーの新品種“試交1号”および“試交2号”の育成について

長嶺和美・八反田憲生[1]・村田寿夫[1]・郡司定雄・富永　寛・高橋英生[2]
（宮崎県総合農業試験場・[1]宮崎県農政水産部・[2]JA宮崎県経済連）

Kazumi NAGAMINE, Norio HATTANDA, Toshio MURATA,
Sadao GUNJI, Hiroshi TOMINAGA and Hideo TAKAHASHI:
Breeding of sweet pea cultivars 'siko No1' and 'siko No2'

スイートピーの交雑育種により，1995年までに雑種第5代目で，ほぼ形質的に固定し，新奇性のある系統を2系統育成したので，その育成経過と特性について報告する。

1. 育成経過

1991年春に，“ミセス・ダグラスマッカーサー”（冬咲き性，花色：鮮ピンク，輪数：3～4輪）×“イースターパレード”（冬咲き性，花色：白，輪数：6輪以上）の組み合わせで交配を行った。F_1 2個体の花色はピンク白（JHSカラーチャート9201）であった。F_2 30個体の花色は白系，クリーム系，ピンク系の花色に分離した。このうち，花色が淡紫ピンク（9502）で輪数が3～4輪の個体（以後系統1とする）と，花色が紫ピンク（9203）で輪数が4輪の個体（以後系統2とする）をそれぞれ選抜し，自家採種を行った。

（1）系統1：F_3 8個体は花色が白系，クリーム系，ピンク系の花色に分離した。このうち花色が淡黄ピンク（0702）で，輪数が4輪の個体を選抜，採種した。これから得た F_4 4個体は，花色が淡黄ピンク（0702）の1色に揃い，輪数は3～4輪であった。4個体中，花色が淡黄ピンク（0702）で輪数4輪の個体より採種を行った。

（2）系統2：F_3 7個体は花色が淡紫ピンク（9501～9502）であった。このうち，花色がより淡く輪数が4輪の個体を選抜，採種した。これから得た F_4 21個体は，花色が淡紫ピンク（9501～9502）で，輪数は3～5輪であった。21個体中，花色がより淡く，輪数が4輪の個体から採種を行った。

2. F_5 の特性

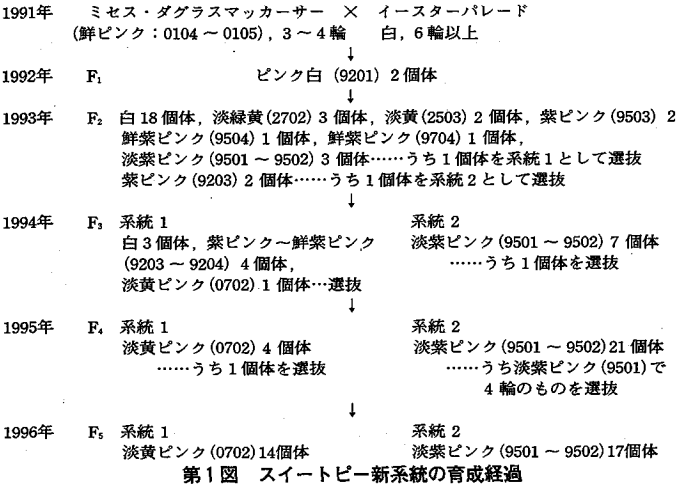
（1）耕種概要：1996年9月4日にケミクロンG液で種子消毒を行った後，7時間吸水させた。その後，冷房ハウス内（昼温25℃，夜温15℃）で催芽，9月7日に2℃ の冷蔵庫に入庫した。9月22日に出庫し，ビニルハウス内に条間40cm，株間15cm，2条植えで直播きした。摘心は10月6日に行った。最低液温は5℃ で管理した。

（2）育成系統の特性

1）系統1：F_5 14個体が得られた。すべての株が11月上～中旬に発蕾した。花色は淡黄ピンク（0702）であるが，これは既存の冬咲き性品種には見られないものである。輪数は3～4輪であった。本系統については花色，開花期共にほぼ固定していると考えられた。

2）系統2：F_5 26個体が得られた。26個体中，17個体が11月中に発蕾した。11月中に発蕾しない株はすべて除去した。花色は淡紫ピンク（9501～9502）で，輪数は3～5輪であった。本系統は F_5 で花色はほぼ固定しているが，開花期にややばらつきが見られた。しかし，本年度の選抜によって開花期の固定度もかなり高くなると考えられた。

以上のことから，この2系統より自家採種したものについて系統1を“試交1号”，系統2を“試交2号”と仮に呼称し，今後普及に向けて栽培技術や採種体制の検討を行う。



第1図　スイートピー新系統の育成経過